

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200066		
法人名	社会福祉法人やすぎ福祉会		
事業所名	グループホームかも東ユニット		
所在地	島根県安来市安来町641番1		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/32/">http://www.kaigokensaku.jp/32/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	松江市黒田町40番地8
訪問調査日	令和 3 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしています。ご利用者の皆様が、今までの暮らしを継続できるように、職員は情報共有に努め、調理等の家事や趣味が継続できるように環境を整え、その人らしい生活を支援しています。ご利用者と一緒に育てた野菜で、季節ごとに味わえるお食事は好評です。笑顔が溢れ、人と人の温もりを感じながら、安心をして過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山陰高速道を眺める河川沿いに又、保育所が近辺に位置する閑静なコミュニティに立地している。「利用者、家族、地域の方とのコミュニケーション」を大切に事業所理念は、職員のケア目標として年毎にスローガンが作成され、職員で話し合われた接遇目標は各ユニット入口に貼り出される等具体となって、家庭的な雰囲気を大切にすることでの暮らしが継続できる支援をめざして理念の共有と意識づけが行われ、終末ケア看取りの経験は、多職種の関係者と連携をとり実践された結果をカンファレンスで振り返り今後活かすことができるものとなっている。調理等は利用者職員と一緒に、利用者と育てた菜園の収穫野菜は季節毎に調理して食事を楽しんでいる。コロナ禍ではオンライン面会やスマホ通信で利用者に寄り添い安心と安全なケア情報発信に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enter) [セル内の改行は、(Altキー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に提示し確認できるようにしている。勉強会、会議等を通じ、自己を振り返ったり再確認を行う機会を設けている。また家族との関わりを大事にし、信頼関係が保てるように随時情報の共有に心がけている。	「ご利用者、ご家族、地域の方とのコミュニケーションを最優先に信頼される事業所を目指す」との理念は、話合で決めた今年度の目標を事務所内に掲示し、ユニット会議等では反復継続して目標が共有され、理念の意識づけに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防において、地域とのかわりを中止しています。	新型コロナウイルス感染予防のために事業所と地域とのつきあいは、中止されている。以前に利用者の方が一人で外出され、地域の人から連絡を貰ったりし、地域との協力関係もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域広報誌にワンポイントアドバイスや豆知識と題してコーナーを設け介護情報を提供している。また戸外散策等を通じ、地域の方と挨拶したり触れ合うことで、利用者を知ってもらい認知してもらおう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し事業所の現状報告と意見交換を行い、ケアに関する提案や意見には、職員間で検討しケアに反映している。また市職員、地域包括支援センターの職員等の情報も職員の知識向上に役立っている。	運営推進会議は一度開催され、後は書面による会議となった。沢山の意見、質問や情報等が聞けてケアに反映させたり、職員の知識向上に活かされた。家族にはタブレットで利用者の生活ぶりを伝えて喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会にも参加してもらい、利用者の現況や、事業所の取組等を確認してもらっている。制度等での不明点も聞きやすい状況があり、わかりやすく教えてもらうことができる。	市担当者とは、運営推進会議、介護認定更新等の時に積極的に伝えて共有し、制度上の不明点は分かり易く指導して貰う等、協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内には言葉による拘束の言葉を掲げ、言い換えの言葉を示したりしている。玄関もオープンになっており、自分の意思で戸外に出ようと思えば、自由に散策できるように対応している(職員は後方より見守る)。	スピーチロック表の作成は、スタッフの話合で考えられ、事務所に掲示し、抑圧感を招かないケアの共有認識を図り、玄関は施錠しないで、利用者は自由に散歩できるように職員は見守っている。月1回の身体拘束学習会は、拘束駄目の意識づけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会にて、高齢者虐待の認識を確認する。リーダー会議では、職場の勤務体制から職員に負担のないよう業務改善にも取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は自立支援制度も、権利擁護も事務上は役職者が担当し、書類提出したり、担当者と話しているのが現状で、一般職員はそのような制度があることは知っていても、それ以上の詳しい内容については話し合いを持ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関することは変更が生じた際には、書面をもって提示している。事業所利用にあたり説明を行い理解できたか確認を取る。契約の締結、解約もすべて書面に残す。説明に対し家族が納得された時点で契約実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は利用者のプラン説明時に確認を取る。それ以外でも家族との交流を密にし気軽に意見が出せる雰囲気づくりをしている。また運営推進会議にも家族代表が参加されており、家族の立場からの意見を述べてもらっている。	コロナ禍では、電話、窓越し面会等利用している。入院の家族さんや海外の孫さんにもオンライン面会を行い、気軽に言って貰える雰囲気づくりで、家族等の要望を確認し、ケアプランに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、各ユニットで話し合いがもたれ、検討事項があればリーダー会議で内容が管理者らに報告される。その場で改善返答できればすぐに改善するが、内容によっては検討時間をもらうこともある。月に1度の職員会議も有効利用している。	各ユニットでは月に1回話し合いがもたれ、職員の体制等はリーダー会議で検討され管理者に報告された。コロナ禍では加湿器の購入が運営に反映されている。職員会議は月一度開催されて職員の意見反映を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉人事考課制度を取り入れており、各自が目標を持って取り組んでいる。勤務に関しては働きやすい職場を目標に個々の要望をできる範囲で聞き入れている。極力職員自ら考えて働けるよう援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は参加してもらいたいと思っているが、制限がある為、掲示板に研修案内は提示し個々で研鑽してもらえよう環境も作っている。OJTを上手に活用し下位者を育てていけるよう上位者が指導に当たる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流は時にあるが、法人外交流は特になく研修等を通じてのみの関わりだが他施設の状況を聞くことで刺激もあるようである。また勉強会は法人内で計画されることがあり、本人が参加意思があれば出席してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にモニタリングし本人の状況確認をし、聞き取りも行っている。また家族からも状況確認することで生活歴の把握をしておく。環境に慣れることを優先し無理強いせず状況を確認し、次の対応につなげている。まずはコミュニケーションを優先している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入所前に施設に来所してもらい、状況説明を行う。その上で家族からの要望や意見があれば聞き取りする。何でも相談できる環境づくりを大切にしている。その後もプラン作成時には家族からの要望を聞きサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者に聞き取りをしたうえで、アセスメントから何を支援していくと、本人が生活しやすい状況になるかを確認する。外部からのサービス利用が適当であると判断した場合は業者と連絡を取り合い調整していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を第一に置き、出来ることは自力で行ってもらい、出来ない部分は声掛けしながら支援していく。料理、軽作業の実施等、利用者と職員がともに行うことで生活感を持ってもらえるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで家族間で築かれてきた環境や絆を大切に、状況を常に報告しあい、情報の共有に努めている。利用者のケアに対し検討事項があれば、家族にも相談し一緒に検討して決めていくこともある。家族には理解してもらいケアを進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、現在、自由に面会ができない状況であるが、窓越しでの面会、オンライン面会を実施している。外出も密を避けて、馴染みの場所へ出かけている。	家族の面会は、オンライン面会や窓越し面会を実施している。外出は密を避けて、11月はドライブを行い、以前に住んでいた場所や神社等馴染みの場所に出かける支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合うご利用者との隣席を配慮している。ご利用者の気分により、変わることもあり、その際には、職員が仲立ちをしコミュニケーションが取れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の契約終了は死亡されるか長期入院であるため、継続しての関わりは難しい。ただし、家族に対しては必要に応じ連絡を取ることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画作成時には事前に利用者本人に希望、困っていること等の確認を会話を通じて把握していく。また家族の希望、本人への思いも参考にしている。意思疎通が困難な方には、通常の暮らしの中から本人に合わせた支援を行う。	ゆっくり々と説明するアプローチをとり、時間をかけて利用者へ寄り添いながら本人の希望等確認に努め、家族の思いも参考にしている。意思疎通困難者の支援は、平素の暮らしぶりから推して本人の状況に合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い過去の生活状況、生活歴は職員の共有事項として事前カンファレンスを行う。入所前の生活状況から大きく変化させることなく無理なく環境に慣れていただくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一応事業所としての日課をもとに、ケアの提供を行っているが本人の意思や体調を考慮したうえで無理なく生活リズムを作っている。ケア対応に関しては現状できることを職員が周知しながら自立支援を前提として対応にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人をしっかりアセスメントしたうえで、自立支援に向けて何が大切なのか見極めサービス提供につなげている。目標に向けてモニタリングの実施、カンファレンスでの検討事項を計画作成に反映させている。	本人をよくアセスメントし、例えば転ばないように歩行を見守る目標や各自別々に「編み物、俳句や出来る仕事の継続等」で元気に楽しく過ごしたい目標は、モニタリングやカンファレンスを行い介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の対応は介護記録として勤務職員が記録していく。更に送りノート、連絡ノートの活用で職員へ送りを毎日行っている。サービス提供責任者は日々の送りを参考に評価し、次回へのプラン作成に当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、臨機応変に対応できるように努めている。機器の導入に関しては業者によるレンタルも依頼している。訪問診療の受け入れも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、以前行っていた、地域との交流を中止しているが、馴染みの場所への外出等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々の利用者は主治医が決まっている。在宅からの入所者はかかりつけ医が引き続き担当され定期的に受診をしている。施設からの入所者は当事業所の主治医が担当する事が多いが、初めに家族、利用者には確認する。	受診支援は、主治医やかかりつけ医と事業所との関係が構築され、家族、利用者の希望を大切にしている。夜間受診の対応もきちんとして利用者の適切な医療支援が行われている。現在コロナ禍のため受診等はスタッフ対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面での申し送りは看護師にメモをとり、申し送りを行っている。利用者の変化には敏感に察知しまずは主治医に連絡し、必要であれば受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良を早期に見つけ担当の医師に連絡し受診、往診を行っている。また夜間方が体調不良になった時の対応も確認済である		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化、重度化に向け終末期対応について研修等を行う。8月には、ご家族、主治医との話を重ねながら、職員間で細かなケアの確認、周知を行い、ご家族の意向に沿って、看取りを行うことができた。	西ユニットが看取りを行ったので、協力体制のもと取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に出向き、救急救命の講習を受けている。また、職員会議等では急変時や事故発生時の対応について、随時、連絡体制や対応の確認を行っている。急変時には主治医の指示により対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する避難訓練は消防署の指導の下、実施しているが、水災害時の訓練には不安が残る。地域の協力は図れると思うが、実際に共に訓練をしたことはない。避難ルートと連絡体制は指示してある。	火災時の避難訓練と消火器の使い方は消防署の協力を得て行い、夜間想定訓練は独自に行い避難ルート、避難誘導職員及び連絡体制は指示され身につけている。災害時備蓄はグループ法人を利用の予定である。	自治会防災担当者との連携を築き、水害時の避難誘導の協力を図る工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉使いには注意を払い、職員間で研修を行ってきた。利用者が心地良い気分になれるよう、個々の主張をしっかりと聞いたうえで、援助するようにしている。(各ユニットでの接遇目標も掲げている)	利用者の尊厳と尊重は、スピーチロック具体例と言換えて、言葉使いのマナーと利用者の気持ちを大切に考えるケアを話し合う研修により、接遇目標を東西ユニット入口に掲示し利用者に寄り添うケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの方法など、自分で意思決定できる会話方法に心がけている。またあらかじめ現在困っていることや希望等会話の中から聞き取りし、サービス計画にも取り入れるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者の主張をしっかりと傾聴する事、又個々に併せた生活リズムを重視する様研修、会議等を通じ都度確認している。できるだけ選択できる会話を行い、利用者の言いたい事を確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々で洗面セットを持っており鏡に向けてと整容されている。時に化粧を施したり理容サービスを受け自分の好みでカット、毛染めをされている。衣類の購入は主に家族が持参されるが、出来る方は入浴時の服を自分で準備してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、片付けは職員と一緒にに行っている。行事食の提供、誕生日には事前に食べたいものを聞き当日に提供することをしている。味に関しては時に意見を聞くと「美味しい」と言ってくれる。	利用者は、力を発揮して調理、盛り付け、片付けは職員と一緒にに行っている。行事や誕生日では嗜好を聞き取り、季節の食事が楽しめるよう美味しい食事を提供し、コロナ禍では鍋を囲む一緒にの食事は中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士のメニューをもとに、少しアレンジしているためカロリーは確保できている。量も個々でグラム数も違えている。また食事、水分摂取量もチェックし、健康管理につなげている。嗜好品も把握し嫌いなものは代替している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア、又はうがいを全利用者に実施している。困難な方は食後に水分を取ってもらい感染予防に努めている。口腔内に異常が生じたり、歯のトラブルが発生した際は、歯科往診か受診を実施している。義歯洗浄も毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表から把握しパットが濡れないように案内時間の検討をしている。排泄行為を自力で行えるように声掛けしながら衣類の着脱等を支援している。	トイレでの排泄を大切にしてパターンチェック表からパット等が濡れないようにトイレ誘導時間を検討し歩行介助等で行い又、利用者に合わせて声掛けをしながら衣類の着脱等の排泄自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理はチェック表にて管理している。不穏に繋がらないように下剤の投与を行ったり、簡単な運動をしたりしている。また水分が取れない方には代替品を提供し、排便が出やすいように食事、水分管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2/wで対応している。あらかじめ職員が組んだ曜日での入浴をしているが、当日の本人の状態や気分に合わせて日を移動することもある。また急な対応にも対応しているときもある。	週2回の入浴日は事前に曜日が決められているが、体調等の具合では入浴日を移動している。午前中入浴とかの急な事情や気の合った者二人の入浴希望等も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後のティータイムには全利用者に声掛けするが、本人の意向で時間がまちまちになることもある。体調や睡眠状態に合わせて時間を調整しながら離床、臥床を行っている。室内環境にも配慮し湿度計を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理しているが、不在時は介護で対応が必要なため、個々が服用している内服の把握はしている。症状により主治医に報告し薬の指示を受けることがある。薬が変更になったときは特に状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に生活リハビリに取り組んでもらっている。調理、食器拭き、洗濯物干しやたたみを積極的に実施されている。無理強いはずせず本人のやる気を促している。役割として楽しみにしている方もある。外出支援も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症予防にて冬場は外出は極力避けているが、買い物等での希望があれば随時対応する様にしている。地域の方との外出は試みた事はないが、家族同伴での外出支援は希望を取り参加できる家族とは一緒に出掛けている。家族との外出は積極的に支援している。	冬場の外出は感染症予防で避けている。買い物等の希望には随時対応に努め、秋はドライブに出かけ、市長選挙にも行ったりする等の外出支援が行われ、家族同伴の外出は積極的に支援することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に乏しいため家族にはその旨、理解を得て、小口にて現金を管理し、消耗品やおやつ等の買い物時や受診時には支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話は自由に使用できるようになっている。また家族や知人からの電話取り次ぎも子機を利用し対応している。文字での交流はできる方が限られているが、手紙等のやり取りはご家族に確認のもと、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、季節感が感じられる様に壁面装飾をしている。また個人で作成された作品も掲示している。その他浴室、玄関、トイレ等は毎日掃除しており清潔感は保たれている。事業所内は適温対応に注意を払って、特に浴室の温度は気を付けている。	フロアーの飾りつけは、季節感を採り入れ、個人の作品も掲示し、利用者と一緒に考えて自分が住んでいる家だという意識を高める共用空間づくりを行い、玄関やトイレ等は清潔感を保ち、ホーム内の温度は適温管理を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在のフロアーでのテーブル位置はそれぞれ気の合った方同士、又話ができる方同士という観点で配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の部屋は、使い慣れた家具、小物の持参は自由に行ってもらっている。ソファ持参し部屋で家族とくつろいだり、趣味の本を沢山持参されている方もいる。	本人の使い慣れた家具、寝具や形見の品等は居室に持ちこまれ、それぞれすっきりした人や沢山持込む人がある。多くの趣味の本や家族とくつろぐソファも持込まれて、居心地よく過ごす居室を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、又トイレ内は車いすや自助具で回転できるように広いスペースが確保されており、自力で行うことができるように配慮されている。又洗面台も車いすが入れられるように高さも考慮されており、食後も自力で行っている。段差もない。		